

生産の姿伝え信頼確保へ

インターネットの普及でホームページを開く農家や食品加工者が県内外で増えた。販売だけでなく生産管理にパソコンを利用する人も少なくない。情報の共有化と発信力を高めるIT（情報技術）が、食の安全や新事業の創出、環境保全型農業を実践する上で重要なツールとなっている。

（峰松清子）

御船町で有機農業を営む河 丁寧（48）の「河内愛農地和」は、ホームページでジャムや野菜セットなどを販売する。

■毎日更新

ホームページは2002年、農園紹介で開設。04年にネット販売を始めてから、現在の販売額は「1・8倍に増えた」と河地さん。ネットショップ担当の田上忍さん（51）は「顔が見えないからこそ、



に4、5回送るといっ。

当初、ホームページ運営は専門業者に委託していたが、更新が滞るなどで失敗。小学校のPTA活動で広報を担当していた田上さんに「農園の情報発信に力を貸して頼んだ」（河地さん）。

現在、地域の話題を載せたブログは毎日更新。野菜セットの内容も週2回、写真とともに紹介し、1カ月間の閲覧数は約3千件を数える。

■生産履歴

「ここでしか買えない本物の商品を提供し、消費者の信頼を得る。それが地域の農家や商家の後継者育成につながる」と話すのは菊池市の酒店「渡辺商店」の渡辺義文さん（57）。02年に開いたのがネット

野菜などの生産履歴をすべて公開。「環境保全型農業に対する私たちの取り組みを知ってもらいたい」と話す水辺プラザ出荷協議会の大嶋会長（山鹿市）



トショップ「自然派きくち村」。環境保全型農業に取り組み生産者約30人が栽培した米や野菜、オリジナルの加工品など約90点を販売する。この9月には、農地を見学し料理を味わうイベント「おらが自慢大宴会」を企画し、約100人の消費者らと交流。県内外のネットショップ



くまもと 2009

利用者も大勢駆けつけた。山鹿市の「水辺プラザかもと」は、販売する農作物や加工品の年間計約3千点の生産・製造履歴をホームページと店頭で公開している。出荷協議会（大嶋武志会長）とともに、農地や作物別に使用農薬、肥料を記録することや、食品表示を学ぶ学習会を開き、約2年半かけ準備した。

中嶋広宣事業部長は「誠実に努力する生産者の姿を伝えることで食の安全に対する信頼を得て、地域の環境も守りたい。情報技術で販売品の付加価値が高まれば、生産者と消費者双方のメリットになる」と話していた。（月1回掲載）

金丸弘美の

地域リーダー

「葉っぱビジネス」で有名な徳島県上勝町。山間地とされる木の葉を料理のつま用に販売し、年間2億7000万円を売り上げ、一躍知られるようになった。このビジネスの背景には入念な市場調査がある。山間地できて、一般市場で売れるものを徹底的に調べ上げている。

無農薬、無肥料で栽培した米など地元産の農作物と加工品を販売するネットショップを運営する渡辺さん＝菊池市



成功に学ぶ情報活用術

ホームページには、四季の葉っぱの文化的背景、収穫状況、使い方、料理の飾り付けの写真を、生産者の人柄と最新のニュースをそろえる。利用するバイヤーや消費者が必要とする情報が発信されているのだ。どこにでもあるものを使いビジネスにする鍵は、ソフトの開発とITを利用した都市部への高度な情報発信能力なのである。

佐賀県三養基郡の「天吹酒造合資会社」は江戸期の建造物を残す酒蔵。酒を造るうえで最も大切な、米を麴にする室と呼ばれる部屋は昔ながらの木造建築。しかし麴の状態を知るために温度計をパソコンにつなげ、管理できるようにしている。伝統を受け継ぎながら、最新の情報技術も組み合わせて最上の酒を生み出すものだ。地方の農業や食の現場で、最も必要とされるのは地域ならではの個性あるものづくり。そして情報の発信能力。つまりソフト力だ。そこにITが活躍している。（食環境ジャーナリスト）